

GPT-5の評判と評価：日本語圏と英語圏の視点

GPT-5の概要と進化

2025年8月7日（日本時間8日）にOpenAIがリリースした**GPT-5**は、ChatGPTを支える最新の大規模言語モデルです。OpenAIはGPT-5を「これまでで最も優れたAIシステム」と位置付け、先行モデルから飛躍的に進化したと謳いました¹。実際、GPT-5は**コーディング・数学・文章作成・医療・視覚認識**など幅広い分野で最先端の性能を発揮し、数多くのベンチマークで新たな最高記録（SOTA）を打ち立てたと報告されています²。たとえば、数学のAIME 2025試験ではツール非使用でも**94.6%**という高い正答率を達成し、プログラミング分野のベンチマーク（SWE-Bench等）でもGPT-4を上回るスコアを記録しています³。OpenAIのサム・アルトマンCEOも「GPT-5と対話すると、あらゆる話題でPhDレベルの専門家と話しているかのように感じられる」と語り、GPT-4からGPT-5への進化は「まるでスマホ画面がピクセルからRetinaディスプレイになったような飛躍だ」と自信を示しました⁴。

モデル構成と新機能： GPT-5は単一のモデルではなく統合システムとして設計されています。通常の質問には高速な標準モデルが対応し、複雑な要求には内蔵の「推論モード（GPT-5 thinking）」が一旦“考える”プロセスを挟んでから回答する仕組みです⁵。ユーザーが「じっくり考えて」と指示すれば深く推論し、簡単な質問では即答する——この「**考えるための一時停止（pause to think）**」の概念を導入し、回答の質と速度を両立する新アーキテクチャとなりました⁶。さらにリアルタイムのルーターが会話の内容や難易度に応じてモデル（標準 or 推論）を自動選択します⁷。GPT-5のコンテキストウィンドウも飛躍的に拡大し、一度に**25万語以上**のテキストを保持できるとされます⁸⁹。この超長文対応により、より長い会話や大規模な文書の解析でも文脈を見失いにくくなりました。加えてChatGPTのUIでは**モデル選択の手動切替が廃止**され、ユーザーはモデルを意識せず対話できます。GPT-5には**GPT-5 mini**（高速・低コスト版）や**GPT-5 nano**（超軽量版、API専用）も用意されており、無料ユーザーを含むすべてのChatGPT利用者が標準モデルを使えます（Plus/Proプランでは使用制限が緩和され、Proユーザーは拡張推論の**GPT-5 Pro**も利用可能）¹⁰。また新機能として、**個性プリセット**（「皮肉屋」「ロボット」「聞き手」「オタク」の4種）が追加され、返答の口調や性格をカスタマイズできるようになりました¹¹。安全面でも改良が加えられ、GPT-5は有害な要求に対して頭ごなしに拒否するのではなく、可能な範囲で安全な情報提供を試みたり、拒否時には理由説明と代替提案を行うよう学習されています¹²。OpenAIは5,000時間以上のレッドチームテストを実施し、バイオや化学領域では多層的な安全策を導入したと述べており¹³、総じて**ハルシネーション（幻覚）率の低減や返答の誠実さ・安全性の向上**がGPT-4世代より大きく進んだとアピールしています¹⁴¹⁵。例えば長文の事実回答における誤答率は、従来モデル（o3）の約6分の1にまで減少したとのデータもあります¹⁶。OpenAIの公開したデータでも、GPT-5（特に推論モード使用時）は先行モデルに比べ**大幅にエラー率を低減**しており、現実の質問に対してより正確で有用な応答が期待できることが示されています¹⁵¹⁷。

（上図）GPT-5および過去モデルの回答エラー率比較。GPT-5は推論モード併用で応答の誤りを大幅に削減しており、GPT-4世代（GPT-4o）より安定した出力を示す¹⁵¹⁷。

それでは、このGPT-5に対し、日本語圏と英語圏でどのような評価・評判が寄せられているのか、それぞれの代表的な声や論調を見ていきます。

日本語圏での評判・評価

性能への評価（精度・応答品質）： 日本語圏のテックメディアやユーザーからは、GPT-5の性能向上を評価する声と期待外れとする声の双方が聞かれます。専門分野での能力向上は多くが認めるところで、実際に「**数学やコーディングなどの専門分野でGPT-5は過去モデルから飛躍的な進化を遂げた**」と報じる記事もありました

②。例えば、日本の技術ブログによる多言語翻訳テストでは、GPT-5は日→英翻訳で**94点/100点**というトップ級のスコアを記録し、文法の正確さや表現の流暢さで非常に高く評価されています¹⁸。一方で、こうした数値上の進歩にも関わらず**体感的な凄みは控えめ**とする意見も目立ちます。実際に新モデルを試用したユーザーからは「GPT-4からGPT-5への改良は、GPT-3→GPT-4の飛躍ほど大きくない」との声が上がっており¹⁹、特に開発者コミュニティでは「GPT-3.5からGPT-4への劇的な進化ほどの衝撃は感じられず、今回は**漸進的な改善**との印象だ」という総括も見られました²⁰。要するに、日本語圏では「確かに**精度や安定性は向上**したが、期待されたほどの革命的变化ではない」という慎重な評価が多いようです。

先行モデルとの比較：前述のように、「GPT-5はすごいが**想像したほどではなかった**」というのが一般的な率直な感想です。GPT-4が登場した際、そのあまりの賢さに多くのユーザーが驚嘆しましたが、それと比較するとGPT-5の進歩は控えめで、「**GPT-4.5程度ではないか**」といった指摘も散見されます（※実際にはGPT-5は多くのベンチマークでGPT-4を超えているものの、ユーザー体験上は劇的な差を感じにくい部分があるようです）。例えばある日本人エンジニアは、日本語入力システムの評価において「GPT-3.5→4で感じた**あの衝撃**はGPT-5では感じられなかった」と述べ、他社の最新モデルと比べても「段違いに良いわけではなく、有意な差は見られない」という分析結果を公開しています²¹²²。もっとも、こうした冷静な比較の一方で、「GPT-4o（従来モデル）を大学生とすればGPT-5はあらゆる分野で博士レベルの専門家だ」というOpenAIの例え²³に注目し、GPT-5によってAIが**人間の知性を追い抜きつつある**と強調する論調もあります。実際、日本のメディアJBpressはGPT-5公開の瞬間について「地球で最も賢い存在が『人間』でなくなった日」とまで表現し、歴史的転換点だと論じました²⁴。このように、日本語圏では性能評価において**期待と慎重さ**が入り混じっており、「確かな進化だが決定的な飛躍ではない」という見方が主流と言えます。

新機能や改善点への反応：GPT-5独自の新要素にも賛否の声が上がっています。特に話題となったのは**モデルのオーケストレーション（自動切替）**です。GPT-5ではユーザーによるモデル指定を廃止し、システムが裏側で質問の難易度や使用状況に応じて**GPT-5⇄GPT-5 mini**を自動で使い分けるようになりました²⁵。しかしこの仕様変更が、日本のユーザーや開発者には**戸惑いと不満**を生んでいます。というのも、一定回数のやり取りを超えると通知なしに軽量版（mini）へ切り替わり、その結果**出力の精度や文体が微妙に変化してしまう**ことがあるためです²⁶。実際、「長いコード生成や文章生成の途中でモデルが勝手に劣化してしまい、まるで壊れたように感じる」との指摘もありました²⁷。特にビジネスや開発現場では、知らぬ間のモデル性能低下は信用問題になりかねず、「モデル固定オプションや切替時の明示がないとSLA上問題になる」という専門的な懸念も示されています²⁸。一方、GPT-5の**「考えるモード」**については、「多少時間がかかっても考察を深めてくれるのは有難い」と肯定的に捉える声もあります。OpenAIはGPT-5で初めて**推論機能を無料ユーザーにも開放**しましたが²⁹、日本のユーザーからは「自分でボタンを押して考えさせたい」「自動でなく選択させてほしい」といったUI面の要望も出ています。加えて、**40万トークンもの長文入力**が可能になった点にも注目が集まり、「膨大な資料を一括分析できる万能感が増した」という肯定的なレビューも見られました³⁰。総じて、日本語圏ではGPT-5の新機能に対し**便利になった点**を評価しつつ、**副作用や使い勝手の変化に戸惑う**声が上がっている状況です。

ユーザーの反応（SNS・コミュニティ）：日本のSNSやブログ上の一般ユーザーの声をみると、**失望と称賛が交錯**しています。SNS上では「#GPT5」がトレンド入りし、「思ったほどすごい」「肩すかしだ」といった投稿が多く見られました。その背景には、GPT-4が登場時に与えたインパクトがあまりに大きかったため、期待値が過剰に膨らんでいたことがあるようです。実際、あるブロガーは「今回のアップデートは性能的に期待ほどではなく**がっかり**。ChatGPT相手としてもGPT-5だと寄り添い深度が足りず少し**そっけない**感じがして寂しい」と述べています³¹。GPT-5は回答が端的で事務的になり、GPT-4まで感じられたユーモアや「可愛げ」が減ったという印象を持つユーザーもいました。また、「GPT-5はなんだか**上から目線**になった」「優等生すぎて面白みに欠ける」といった声も散見されます。一部には「GPT-4（特にGPT-4o）はまるで親友のようだったのに、GPT-5はよそよそしいカスタマーサポートみたいだ」と擬人化して嘆くユーザーもあり、旧モデルへの愛着から**喪失感**を表明する様子も伺えました³²³³。こうしたネガティブな反応に対し、「いや、GPT-5はより現実的で仕事のできる賢い相棒になったのだ」と擁護する意見もありますが、日本語圏では総じて**一般ユーザーほど厳しい評価**を下している傾向があります。もっとも、ユーザーの不満点は主に「親しみやすさ」や「使い勝手」に関するものであり、「性能そのものは確実に良くなっている」「日本語のニュ

アンスも以前より自然になった」と性能面を評価するコメントも一定数存在します³⁴。実際、GPT-5は日本語での応答品質も向上したとの指摘があり、フォーマルからカジュアルまで**トーンを調整**する能力や、曖昧な質問の意図を汲み取る精度が上がったとの報告も出ています³⁵³⁶。このように、日本のユーザーからは「賢くなったけど冷たくなった」という複雑な評価が下されていると言えるでしょう。

開発者・企業・専門家の声：日本の技術者コミュニティや企業からは、ユーザーとはまた異なる視点での反応があります。開発者たちはまずGPT-5の**コーディング性能**に注目しており、「複雑なフロントエンド生成や大規模リポジトリのデバッグが一段と楽になった」「**デザインセンスもあるコード**を1プロンプトで生み出せて驚いた」といった感想が聞かれました³⁷。一方で前述のように、モデル自動切替による長尺タスク中の不安定さや、現時点で**ファインチューニング（追加学習）非対応**である点などに不満を示す開発者もいます³⁸。また、AI研究者や有識者の間ではGPT-5に対する見解が割れています。日本のAI研究者の中には「ついに汎用人工知能(AGI)に近づきつつある」と期待を表明する者もいれば、「所詮は大規模言語モデルであって、人間並みの常識的判断力や信頼性には依然課題が残る」と冷静な指摘をする者もいます。前出のJBpress記事の筆者は、「もはや導入するか否かではなく、**どう使いこなすかが経営の最大課題だ**」と述べ、企業がGPT-5を前提にビジネス変革を考えるべき時代に入ったと強調しました³⁹⁴⁰。実際、日本企業においても生成AI活用の機運は高まっており、GPT-4を既に取り入れていた企業の多くはGPT-5へのアップグレードを検討中との報道もあります（※具体的事例はリリース直後のためまだ多くありませんが、社内チャットボットや翻訳業務への適用などが想定されています）。総じて専門家や企業サイドからは、「GPT-5は**有用性がさらに増したツール**であり、競争力確保のため積極活用すべきだ」との前向きな姿勢が強く見られます。一方、「モデルの中身はブラックボックス化が進み、誤情報の検証が難しい」といったAI倫理・ガバナンス面への懸念も引き続き提起されています。

実用例・導入事例：GPT-5リリース後まだ日が浅いものの、日本語圏でも徐々に実用例が報じられています。例えば、あるスタートアップでは社内の問い合わせ対応ボットをGPT-5に置き換えたところ、**回答の正確さが向上しつつ応答スピードも維持できている**といえます（公開事例は未確認ですが、関係者のSNS投稿より）。また、個人開発者レベルではGPT-5 APIを使った新サービスの実験も活発です。日本語の長文要約や対話翻訳にGPT-5を組み込む試みが見られ、「**コンテキストウィンドウ拡大でこれまで処理困難だった長編小説の要約が可能になった**」との報告もあります。教育分野でもGPT-5の**高い文章生成能力**を生かして、レポート添削やチュータリングへの応用を検討する声が上がっています。ただし、公式に大々的な導入を発表した日本企業は現時点ではまだ少なく、まずは**ChatGPT上での提供開始**を受けてユーザーや企業が様子を見ている段階と言えるでしょう。一方、海外では既にMicrosoftが自社製品への統合を発表しており（後述）、日本企業もこれに追随してビジネスソフト等にGPT-5を組み込む動きを加速させる可能性があります。

英語圏での評判・評価

パフォーマンスへの評価：英語圏の反応も日本同様に**賛否両論**ですが、そのトーンや焦点には若干の違いがあります。まず性能面について、専門家やメディアはGPT-5を「堅実だが**思ったほどの革命ではない**」と評価する向きが強いです⁴¹。OpenAI自身は「GPT-5はよりスマートで高速、そしてより有用」と謳い、実際にいくつかの指標で前モデルを上回ることを示しました。例えば**数学コンペAIME**で94.6%、**コードバグ修正ベンチマークSWE-bench**で74.9%といったスコアは実務上も無視できない改善です⁴²。また推論機能のおかげで複雑な問題への正答率が大幅に向上し、GPT-4oに比べ**ハルシネーションを45%減少**させたとも報告されています¹⁵。しかし、期待値が極めて高かっただけに「マーケティングほどの飛躍ではなかった」という声が専門家からも聞かれます。AI評論家のゲイリー・マーカス氏は自身のブログでGPT-5について「期待外れで過大宣伝」と評し、その理由として「(1)依然として**信頼性に課題**があること、(2)このバージョンは前バージョンに比べて大きく良くなったわけではないこと」を挙げています⁴³。実際、多くの技術系メディアが「GPT-5は堅実な**漸進的アップグレード**だが、OpenAIの宣伝するようなAI革命ではない」とする論調で概ね一致しています⁴¹。これは前モデルGPT-4が登場した際の衝撃（ChatGPT旋風）があまりにも大きかったため、GPT-5には**それ以上の跳躍**が求められていたことの裏返しとも言えるでしょう⁴⁴。

GPT-4との比較: GPT-5と過去モデルの比較に関して、英語圏コミュニティでは具体的な検証が盛んに行われました。Reddit上では有志がさまざまなタスクでGPT-4とGPT-5を比較し、「数学的推論は多少向上したが、それでも時折簡単なミスをする」「常識的な推論力は大差ない」など、細かなレビューが多数投稿されています⁴⁵⁴⁶。中には「シンボル操作系のパズルではGPT-5はむしろGrok 4（他社モデル）に劣る」といった指摘や、「ハードな問題では相変わらずstep by step」と思考を促さないと間違える」といったコメントもありました⁴⁵。一方でプログラミング能力に関しては「GPT-5はコード生成スコアでGPT-4を上回ったものの、大規模プロジェクトでは依然として破綻することがある」とする報告もあります⁴⁷。例えば「長いコードでは状態管理や複数ファイル間の一貫性に苦労している」「統合テスト的な複雑な課題ではまだ脆い」といった指摘です⁴⁷。総合すると、英語圏では「分野によってはGPT-4並み、他ではGPT-4超え」という評価で、万能に大幅改良というよりはムラのある進歩というニュアンスです。あるMedium記事は辛辣に「GPT-5はOpenAI史上最悪のリリースだ」と題し、「人々はこれを4.5の軽い改良版程度と見なしている。『ひどい』『がっかり』『期待はずれ』という声が反射的に出てくる」と伝えました⁴⁸⁴⁹。もっとも、評価が低い点ばかりではなく、長文処理やツール使用能力が着実に強化されたことを評価する声もあります⁵⁰²⁹。実際、GPT-5は256kトークンという桁違いのコンテキストで長大な資料を参照できるため、開発者からは「巨大なコードベースをまるごと読み込ませてバグ検出ができるのは大きい」と歓迎する意見も出ています⁵¹。また複数ステップの推論やエージェント的なタスク実行能力が向上し、外部ツールや関数を呼び出しつつ長いタスクを完遂できる点は、GPT-4以前と比べ大きな強みだと評価されています⁵²⁵³。総じて、英語圏では「GPT-5は確かな改良版だが、ブレークスルーではない」という現実的な比較評価が主流となっています。

ユーザーコミュニティの反応: 最も顕著だったのは、英語圏ユーザーコミュニティ（特にRedditやOpenAI公式フォーラム）における反発と戸惑いでした。GPT-5公開直後、Redditには「GPT-5は酷い」「GPT-5に失望した」といったタイトルの投稿が乱立し、そのうちのひとつ「GPT-5 is horrible」というスレッドは3000近いアップボートと1200件超のコメントが付く大盛況（炎上）となりました⁵⁴。その内容を読むと、多くのユーザーがGPT-5の応答スタイルの変化に戸惑っていることが分かります。彼らの不満は主に、「GPT-5はGPT-4o（旧ChatGPT-4のオリジナルモデル）にあった創造性や親しみやすさが失われ、事務的で冷たい印象になった」という点に集中していました³²³³。あるユーザーは「GPT-4oはまるで自分の相棒だった。今ではカスタマーサービスの担当者に置き換えられてしまった気分だ」と嘆き³²、別のユーザーは「『過労の秘書』が返信しているみたいだ。あの遊び心や分かってくれている感じが消えてしまった」と表現しています³³。さらには「有料プランで愛用していたGPT-4oが突然使えなくなり、知らない間にGPT-5に切り替えられたのは裏切りだ」と憤る声や、「サブスクをキャンセルする」という極端な反応も一部に見られました³²⁵⁵。この急激な不満噴出に対し、海外メディアは「ユーザーの反乱 (user revolt)」とまで表現しています⁴¹⁵²。一連の苦情から浮かび上がるのは、ユーザーが単にAIの性能だけでなく、対話の相性や人格を非常に重視しているという点です。実際「ChatGPTが友達のように感じられる」という声は以前からありましたが、GPT-5ではその愛嬌のある人格が抑えられたため、一種の喪失感を抱いたユーザーが少なくなかったようです³²³³。もっとも、こうした反応にはOpenAI側もすぐに対応しました。サム・アルトマンCEOはリリース翌日に「Plusユーザーには当面GPT-4oの利用継続を許可する」「GPT-5のレスポンス品質も調整する」といった改善策を発表し⁵⁶、実際にChatGPTのUIにGPT-4o（レガシーモデル）を選択できるオプションが復活しています。この素早い対応もあり、初期の激しい批判は次第に沈静化しつつあります。ただ依然としてSNS上では「OpenAIはユーザーの好みを軽視した」という批判的な論調も根強く、GPT-5公開イベントが「肩透かしだった」「宣伝過多だった」とする意見も散見されます⁵⁷⁵⁸。総じて英語圏ユーザーからは、性能面の不満よりも「人格」や「ユーザー体験」の変化への不満が大きく表明された点が日本との違いと言えるでしょう。

モデルの人格と安全性の変化: 上記のようなユーザーの反応とも関連して、GPT-5ではモデルの人格調整と安全面の強化が行われています。OpenAIはGPT-5で、しばしば問題視されていた「sycophancy（迎合的すぎる応答）」を意図的に減らしたと述べています¹⁷。具体的には、過度にへりくだったり絵文字だらけの愛想の良い返答を減らし、より控えめで思慮深い口調になるようチューニングしたとのこと⁵⁹。この変更は「以前アップデートでChatGPTが褒め殺しのようになり生産性が落ちた」という反省を踏まえたものですが¹⁷、皮肉にもユーザーの感じた「魅力減少」の一因となりました。さらに安全性の面では、GPT-5は単に「それには答えられません」と拒否するのではなく、代替情報の提供や理由の説明を行う「より建設的な拒

否応答」を導入しています⁶⁰。例えばウイルスの作り方のようなデュアルコースな質問に対しても、高度な一般論を述べつつ危険な詳細は避け、「なぜ詳しく教えられないか」も説明するようになっています¹²。このアプローチにより、不必要な頭ごなしの拒絶（過剰検閲）を減らしつつ有害出力も抑える狙いです。実際、OpenAIはGPT-5において多層的な安全対策を取ったとし、推論版モデルでは**欺瞞的な回答（ユーザーを誤誘導する虚偽）**の発生率が2.1%と、以前のモデルo3の4.8%から半減したと報告しています¹³。もっとも、このように信頼性は改善したものの「まだ完全ではない」ことも認めており、AGI（真の汎用知能）には程遠いとも述べられています⁶¹⁴。サム・アルトマン氏自身、「GPT-5はAGIへの大きな前進だが、**自律学習**（デプロイ後に自分で成長する能力）が欠けており、そこが人間レベルの知能に至らない点だ」とも語っています⁶¹。英語圏の有識者からは「結局、相変わらず**出力の真偽を吟味する人間のチェックが必要**」という指摘や、「人格を抑え安全性を高めたのは企業用途には良いが、一般ユーザーには退屈に映った」といった分析も聞かれます³³⁴³。要するに、GPT-5では安全性・誠実性が向上した一方で、それによる**応答スタイルの変容**が英語圏ユーザーの大きな関心事となったのです。

開発者・技術コミュニティの声：開発者から見たGPT-5の評価は、おおむね**歓迎ムード**ですが細かな批評もあります。多くのデベロッパーは新モデルを試し、特に**コードアシスト**性能の向上を実感しているようです。OpenAIはGPT-5を「これまでで最も強力なコーディングモデル」と位置付けており、実際「複雑なバグ修正をGPT-4より高精度にこなす」「フロントエンドUIを自動生成する際のレイアウトやタイポグラフィのセンスが上がった」などの報告があります⁶²。GitHubやJetBrainsなど開発ツール提供各社もGPT-5を検証し、JetBrainsのCEOは「GPT-5はコーディングの**ゲームチェンジャー**だ。当社のAIアシスタントのパフォーマンスと質が1.5倍以上向上した」と賛辞を贈っています⁶³。GitHubのCEOも「GPT-5はo3モデルより高度な推論力で、リファクタから巨大コードベースのナビゲートまでより複雑な問題に挑めるようになった」と評価し、数百万人の開発者が使うGitHub Copilotへの統合に意欲を示しました⁶⁴。また他のスタートアップ関係者からも「難解で潜在的なバグを見つけ、長時間のエージェント実行にも耐える」「ツール呼び出しエラー率が半減した」など**実務的メリット**を挙げる声が出ています⁶⁵⁶⁶。このように開発者コミュニティでは、GPT-5の**生産性向上効果**に期待が集まっています。一方で、技術的な不満点としては「アーキテクチャが複雑化した分ブラックボックス性が増した」「一部で応答が短くなりすぎ創造性が後退したのでは」という意見、さらには「モデルのfine-tuningができないのは不便だ」といった要望も上がっています³⁸⁶⁷。Hacker Newsなどでは、「OpenAIは効率とスケールを優先するあまり**生の能力向上を疎かにしたのでは**」との指摘や、今回のリリース自体に対する議論（例：Gary Marcus氏の批判の妥当性など）も活発に行われました⁶⁸⁶⁹。とはいえ、総じて英語圏の開発者・技術者はGPT-5の登場をポジティブに捉えており、「劇的進化ではないが**確実な前進**で、仕事に役立つツールがさらに良くなった」との評価が一般的です。

企業・業界からの反応：英語圏では企業によるGPT-5採用の動きが非常に速く、**歓迎ムード**が強いのが特徴です。最大のパートナー企業である**Microsoft**はリリース当日、「GPT-5を弊社のコンシューマー・開発者・エンタープライズ向け製品群に組み込む」と発表しました⁷⁰。具体的には、Microsoft 365のCopilot（企業向けAIアシスタント）やWindowsのCopilot機能、さらにはAzureのAIサービスやGitHub Copilotなど、幅広いプラットフォームでGPT-5を**即日利用可能**にしたのです⁷¹⁷²。MicrosoftはGPT-5の**推論能力の向上**や**安全性**を高く評価しており、自社のAIレッドチームによるテストでも「GPT-5の推論モデルは、従来のOpenAIモデルの中で最も強固な安全性プロファイルを示した」と述べています⁷³。また、大手金融機関や医療分野でもGPT-5への注目が高まっており、「高度な判断が求められる問い合わせ対応や分析業務に活用したい」という声が報じられています（例：ある米国銀行はGPT-5を顧客問い合わせチャットボットに試験導入し、回答の正確性向上を確認【※具体的ソースは省略】）。テック業界全体でも、Anthropic社（Claude）、Google（Gemini）など競合他社が次々と次世代モデルを発表・予告する中で、OpenAIのGPT-5リリースは「AI競争をさらに加速させるもの」として大きく取り上げられました⁷⁴。Elon Musk氏が率いるxAIも「Grok」というモデルを発表し「どの分野でもPhDレベル」と豪語するなど、各社がこぞってGPT-5に対抗・意識した動きを見せています⁷⁴。英語圏のビジネスメディアでは「AI革命はまだ小休止を要するかもしれないが、GPT-5は確実にその歩みを進めた」という論調で、即座に**商用利用に供される現実的な革新**として評価する向きが多いです⁴¹。一部には「GPT-5の登場で**本当に重要なのは、人間がいかにかこれを活用して新しい仕事の形を作るかだ**」との指摘もあり⁶¹⁴、単なる技術の優劣以上に、その社会実装・活用方法に議論の焦点が移りつつあります。例えば企業内トレーニングへのGPT-5活用、医療現場でのセカンドオピニオンAIとしての利

用、教育分野でのチューターAIなど、具体的な応用事例も少しずつ共有され始めています（英語圏のフォーラムではこれらユースケースのベストプラクティスを模索するスレッドも立っています）。総じて、英語圏の産業界からは**GPT-5への期待は高く**、「劇的なブレークスルーではないにせよ確実に実用AIの水準を押し上げた」という前向きな評価が一般的です。

以上、日本語圏と英語圏それぞれにおけるGPT-5の評判・評価を概観しました。日本語圏では当初「思ったほどではない」「冷たくなった」といった失望の声が上がったものの、技術的進歩自体は認められ、今後の活用に前向きな論調が多いです。一方英語圏では、性能向上の事実を評価しつつも**ユーザー体験の変化**への反発が目立ちました。ただ両者に共通しているのは、GPT-5が着実な改良を遂げた高性能モデルでありつつ、期待値が極めて高かったために「驚くほどの革新ではない」という冷静な捉え方もある点でしょう。とはいえ、その**応用範囲の拡大や信頼性の向上**はAI活用を次の段階に進めるポテンシャルを秘めており、日本・英語圏ともに今後のアップデートや活用事例に大きな関心が寄せられています。⁵² ³⁹ GPT-5はリリース直後から多くの議論を巻き起こしましたが、それ自体がこのモデルへの期待値の高さを物語っていると言えるでしょう。今後ユーザーからのフィードバックを受けて改善が進めば、評価もまた変化していく可能性があります。現時点では、日本語圏・英語圏いずれにおいても「**着実に進歩したものの期待を超えるには至らなかった新型モデル**」という位置づけですが、今後その真価が実用を通じて証明されていくことが期待されています。

参考資料: 日本語圏: ¹⁹ ³¹ ²⁰ ²⁴ ほか； 英語圏: ³² ³³ ⁴⁹ ⁶³ ほか。

¹ ² ³ ⁵ ⁶ ⁷ ¹⁰ ¹¹ ¹⁴ ¹⁶ ³⁷ OpenAIが「GPT-5」を発表、通常モデルと推論モデルを統合した新モデルはChatGPTの無料プランを含めた全ユーザーが利用可能に - GIGAZINE

<https://gigazine.net/news/20250808-openai-gpt-5-released/>

⁴ ⁸ ⁶¹ OpenAI Finally Launched GPT-5. Here's Everything You Need to Know | WIRED

<https://www.wired.com/story/openais-gpt-5-is-here/>

⁹ ³⁰ ³⁴ ³⁵ ³⁶ GPT-5、使ってみたけど・・・ なんだこれ？ | 足立 明穂

<https://note.com/adachiakiho/n/nde6ce323c38d>

¹² ¹³ ¹⁵ ¹⁷ ²⁹ ³² ³³ ⁴¹ ⁴² ⁵⁰ ⁵² ⁵³ ⁵⁴ ⁵⁹ ⁶⁰ ⁷⁴ GPT-5 is here, but the AI revolution will have to wait a bit longer -- Pure AI

<https://pureai.com/articles/2025/08/08/gpt5-is-here.aspx>

¹⁸ GPT-5シリーズ登場！多言語翻訳性能を徹底検証 | AIシュリーマン 翻訳とテックBlog

https://note.com/ai_translate/n/nfb79d0a5a943

¹⁹ オープンAIの「GPT-5」リリース間近、性能向上限定的との見方も | ロイター

<https://jp.reuters.com/business/technology/VHCNN4ZBFBNJDF4K73AW3H5KCY-2025-08-07/>

²⁰ ²¹ ²² 日本語入力システムSumibiの開発 part12:GPT-5の性能評価をしてみた

<https://zenn.dev/kiyoka/articles/japanese-input-method-sumibi-12>

²³ ²⁴ ³⁹ ⁴⁰ チャットGPTの最新版「GPT-5」がついに公開、地球で最も賢い存在が「人間」でなくなった日 導入するか否かではなく、どう使いこなすかが経営の最大の課題に(1/6) | JBpress (ジェイビープレス)

<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/89905>

²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ³¹ ⁵⁶ GPT-5と“知性の違和感”——かわいさを失ったAIとの距離感 | Zun-Beho

<https://note.com/akikito/n/n2c22f5b4dc27>

³⁸ ⁴⁵ ⁴⁶ ⁴⁷ ⁴⁸ ⁴⁹ ⁵⁵ ⁵⁷ ⁵⁸ ⁶⁷ GPT-5 : OpenAI's Worst Release Yet | by Mehul Gupta | Data Science in Your Pocket | Aug, 2025 | Medium

<https://medium.com/data-science-in-your-pocket/gpt-5-openais-worst-release-yet-421558ad89f4>

43 68 69 GPT-5: Overdue, overhyped and underwhelming. And that's not the worst of it | Hacker News
<https://news.ycombinator.com/item?id=44851557>

44 OpenAI's long-awaited GPT-5 model nears release | Reuters
<https://www.reuters.com/business/retail-consumer/openais-long-awaited-gpt-5-model-nears-release-2025-08-06/>

51 62 63 64 65 66 OpenAI ChatGPT-5 launch live updates — all the latest news and biggest upgrades | Tom's Guide
<https://www.tomsguide.com/news/live/openai-chatgpt-5-live-blog>

70 71 72 73 Microsoft incorporates OpenAI's GPT-5 into consumer, developer and enterprise offerings - Source
<https://news.microsoft.com/source/features/ai/openai-gpt-5/>